

IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第19回会合議事録

1. 会合の概要

日時： 2022年5月30日(月)17:03-19:01

会場： オンライン

主催： 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)
一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

参加者数： 15名

参加者一覧（五十音順・敬称略）：

Aoki Kuninori

飯田 陽一

加藤 幹之（司会進行）

Kamimura Keisuke

佐々木 雅人

柴田 輝之

Suga Yuji

高松 百合

立石 聡明

浜田 忠久

堀田 博文

MAEMURA Akinori

森口 友里

森下 大

山崎 信（議事録案作成）

2. 発言録

【加藤】 時間になりましたので、第19回目の活発化チームのミーティングを開始したいと思います。

今日のアジェンダは、山崎さんが取りまとめていただいたとおりでございます。前回、プログラム委員会の内容について、拡大プログラム委員会ということで広い範囲をやっていただいて、幾つかの進んで募集がスタートしたとかですね、そういうことがありますし、それからNRIの組織の枠組みについては、また前村さんのほうからいろいろ書類を整理していただいた後で議論をしていただくと。

それからユース活動についても、山崎さんのほうで資料をまとめていただいたので、後で山崎さんから御説明いただいて、御意見をいただくと。あとチーム定例会合、これメールでやり取りが進んでおりますけれども、この定例会合の運営とか、議長とかチェアとか、そういうのをどうするかというようなことも関係するのかなと思います。

具体的にこういうたたき台というのはないので、今日はいろいろな意見を聞いて、方向性を出せればと思っています。

ということで、今お名前拝見したので、まず日本政府の準備状況、進捗状況ということで、飯田様のほうから御紹介いただけますでしょうか。

【飯田】ありがとうございます。

そんなにたくさんのご事情はないんですけれども、1つは国連の事務局、IGF事務局と今後の準備について話を少しずつしてしまっていて、当然彼らは今年のエチオピアの準備に忙しいので、その中でしているわけなんですけれども、ただ来年の会場の決定とかに向けて、夏以降になると思われるけれども、その視察団が来て会場を決めたり、政府の関係者等、あるいは場合によっては政治家と面談をして、これは通常のプロセスだそうなんですけれども、その上で最終的に日本開催というのを正式に決定するというプロセスがあると。

ただ、まあこれはあんまり大っぴらに言うことではないかもしれませんが、彼らとしては日本について何か問題になると思っていないので、事実上そんなに心配はしてなくて、念のためチェックに行くぐらいのつもりという感じで来てくれて。ただ、細部はいろいろすり合わせる必要があると思いますので、我々のほうでもいろんな会場や、日程や、細かいところを、だんだんと準備をしていかなきゃいけないというのと、あと財政的な準備も今しております、なかなか一筋縄ではいかないんですが、頑張っておりますので、また少しずつ皆さんと共有できるようにしたいと思っています。

来年に向けてではあるんですが、今年準備の中で、今年のエチオピアでのいろんなセッションの提案の期限というのが、今週末というか6月3日の標準、世界標準値でUTCで23時59分だったと思いますので、日本時間でいうと土曜日の朝だと思うんですけれども、とにかくそこが締切りになってしまっていて、私どもは過去数年間、オープンフォーラムという小規模なセッションを毎年1つはやっています。総務省でホストしてやっております、DFFTですとか、G20で何やるかとか、そんなようなテーマで、毎回何人かのスピーカーを呼んでディスカッションをしたということになっています。

今年は、来年のホスト国なので、ちょっと1個じゃなくて2、3個出そうということで、今省内でも何やろうかという話をして、もうあと1週間ないので何をやろうかじゃないんですけれども、申込みをちゃんと書いて出す準備をしております。

我々はオープンフォーラムという枠組みなんですけれども、ほかのステークホルダーの方ですと、ワークショップですとか、あと何かライトニング何ととか、いろんなフレームワークがあって、ホームページ見ていただくとセッションというところがあって、そこを開けていただくと出てきますので、ぜひ国内で、やっていただいていることを使ったり、まあ使わなくてももちろんいいんですが、こういうことも視野に入れながら、来年に向けて、今年まず1回、エチオピアでやってみようという方が出ていただけるとありがたいなと思います。

我々のセッションでも、日本人のスピーカーを呼ぶ可能性はありますけれども、基本的にいろんな国から、なるべく女性を含めて呼んでしまいますので、日本人だけのセッションというのは普通はないので、できれば皆さんのほうでもやっていただいて、ほかの国の方とも一緒にセッションをつくったり、実際に運用するというのを今年一度でやってみていただいて、来年に向けてさらに準備が一緒にできればなと思っていますので、ぜひ御検討いただければと思います。

というところで、今日は簡単ですけれども、御報告とさせていただきます。

【加藤】 ちなみに飯田さん、今の二、三件考えていらっしゃる候補は、イメージとしてテーマっていいですか、まだ最終決定ではないのかもしれないんですが。

【飯田】 そうですね、今の御時世なので、何でしょう、ディスインフォメーションとか、あるいはインターネットのガバナンスの中でもシャットダウンとか、何なんだろうな、フラグメンテーションとか、そういうものは公募だろうと思っていますが、省内にいろんな関係者の意見を聞いて最終決定しなくちゃいけないので、それが必ず入るかどうかは分からないんですけども、インフラだったりデータフロー、データだったりということもあり得ると思いますし、もしかしたら3つぐらい通れば、今お話ししたようなものが、それぞれ1個ずつ入っているみたいな形になるかもしれません。

【加藤】 ありがとうございます。

あと、秋に、誰か分からないですけども、IGFの事務局から何人か、もしくは1人来るとした場合に、例えばこの活発化チームやこのプログラム委員会の方々と、日本のステークホルダーの方々との接点みたいなのを何かお考えいただく時間とか、まだ全く白紙だと思いますが、そういうことはあるんでしょうか。

【飯田】 そうですね、国連側のルールがどうなっているか分からないので、彼らは何か会わなきゃいけないとか、チェックしなきゃいけないもののリストがあって、それをこなしに来ると思うんですね。ただ、彼らのほうで問題がなければ、そういうアレンジをさせていただくというのも十分あるというか、それはできたらいいことなのではないかと思っていますので、彼らのほうで可能そうかどうかを確認した上で、もしできそうであればまた御相談させていただきたいと思います。

【加藤】 ありがとうございます。

もし日程等、何かあれば、なるべく早目にこのメーリングリストなりで教えて、共有していただけるとありがたいかなと思います。

【飯田】 我々も、もういいかげん早く来てくれって言っているんですけども、なかなか忙しいらしくてですね。

【加藤】 ありがとうございます。飯田様への何か御質問とか、皆さんいかがでしょうか。

それから、先ほどのエチオピアでのセッションについては、後でまた、もし何かこういうことやっているというのがあれば、まとめて伺いたいなどは思っていますけれども。日本から考えていらっしゃる候補は、あるというふうには聞いておりますけれども、もしこの場で、後で御披露いただくことがあればお願いしたいと思います。

【飯田】 すみません、一つ言い忘れましたが、IGF事務局のほうから、やはり来年のホスト国としては、ぜひブースというかその展示というか、それはビレッジなんでしょうか、出してほしいというふうに言っております。これは、ぜひ民間の皆さんで考えていただくとありがたいなと思っています。

【加藤】 例えば日本の紹介とか、そんなのも含めてですね。

【飯田】そうですね。そこは、やっぱりホスト国、来年日本として、日本を紹介しますというのが一番よろしいんじゃないかと思います。

【加藤】物理的に、今度もエチオピアも、そういう場所はかなり確保されるんですかね。人が来ないので、ネットでそれを紹介する部分というのは、かなりあるのかなと思うんですけども。

【飯田】そうですね、オンサイトとオンラインの比率がどうなるのかよく分からないんですが、ただ供給側というか何かやる側は、その両方をやらなきゃいけないということだと思いますので、恐らく現地のブースは、人がほとんど来なくても一応出していただいて、それを何かオンラインにどういうふうに乗せられるのかは、ちょっと事務局と相談しないと分かりませんが、両方で、現地には、ワークショップとかそのセッションのことを考えると、現地になくても、ものほとにかく出ていけばいいということのようですので、その辺は我々もよく事務局にも聞きながら、皆さん、もしやっていただけるようであれば、御協力して進められればと思います。

【加藤】ありがとうございます。いかがですか、皆さんの御質問とか御意見ございますか。飯田さん、お時間が限られているので、大変貴重なお時間いただいているので、ぜひ。

【前村】前村ですけども、よろしいでしょうか。

【加藤】お願いします。

【前村】飯田さん、ありがとうございます。

IGFビレッジでブースがたくさんあるところというのは、IGFのオンサイトのイメージとしてはあるので、ああいうものなんだろうなと思っているんですけども。ブースは、今のおっしゃり方だと、民間で何か出資をして、コストもカバーしながらやるということなんだろうかな。それとも、中で動員ができればいいとかそういうことなんだろうかな。どちらでおっしゃいましたか。

【飯田】すいません、今こちらの状況としては、セッションは用意しているんですが、ブースの準備をしていないので、もし何かお手伝いする必要があるところがあればおっしゃっていただければと思うんですけども、ちょっとできれば、まずコミュニティー主体で考えていただければと思っている次第です。

【前村】うーん、なるほど。そうですね。それ、締切りいつとかってあるんですかね。

【飯田】すいません、ちょっとブースのほう確認していないんですけども、多分……。

【前村】分かりました。

【飯田】ビレッジは、ちょっと遅かったんじゃないかと思いますね。

【前村】分かりました。ちょっと、そうですね、どういうふうな形で、例えばJPNICがやるとかって思ったとして、どういうふうに進めればそれを正当化できるか、ちょっと今のところ頭の中に何のアイデアもなく、どうしようかなと今思っているところなんですよ。

というわけで、ちょっと追って御相談するかもしれないですけども。はい、ありがとうございます。

【飯田】こちらでできることがあれば、考えさせて、できるだけ御協力したいと思いますので、よろしくお願いします。

【加藤】机、椅子は、現地側から多分借りられますよね。実際、与那国もすごいパネルをつくって何か紹介するというよりは、人がそこにいろいろ説明するようなことが多いですよね、企業の宣伝ではないので。だとすると、何かちょっと前村さん、やり方を考えたほうがいいですかね。そんなにコストはかからないような印象はあるんですけども。

【前村】例えば、ICANN64、神戸やったときには、ローカルホスト委員会を2年前ぐらいに立てて、ローカルホストとしての予算措置があって、その中でその前の会合、バルセロナだったんですけども、にブースを出して、ブースを出すぐらいのお金は何かこうこしらえたんで、それでやろうかなと。

で、神戸で、あそこでやるからというのは、みんなの頭の中にイメージがあるので、寄っていらっしゃいみたいなことをきちんと言えたんです。ちょっとその全体像が、今回どういうふうにできるのかというのは、よく今のところ頭の中にアイデアがなくて、少し思案しないと出てこないという感じですね。

【加藤】場所も決まらないので、あれですよね、候補が決まるのがひょっとすると秋になってしまうとすると、そのプロモーションビデオ、町が決まっていれば、特に地方の町なんかだと何かそこに結構ビデオがあつたりもしますしね。そういうのも活用させていただいたりとかもできるし。

【前村】日本という、日本を売るというのはあまりやったことがないのでね。

【加藤】それにもう多分ね、このグループで日本全体のことをやっても、あんまり意味ないんじゃないかと思うんですよね。

【前村】そうなんですよね。

【加藤】ええ。だから、東京以外であれば何か少し意味があるかもしれないし。東京だとしても、もう少し日本で今こういう活動やっているという紹介も兼ねて何かやれば、まあ意味あるんでしょうね。

【前村】まあそういうことかもしれないですね。

【加藤】ただ、来年のことは何もできないので、またちょっとこれは議論を別にやらせていただくという事で。ありがとうございます。

それじゃあ順不同で、立石さんからまず、それじゃあお願いします。

【立石】すいません。いや、その場所の件で、何となくイメージでもどの辺とかって、何となくあるのかなのか、ちょっと教えていただき、飯田さん、もし何となくでも決まっている、決まっているというか、その候補地が上がっていれば、教えていただけるものであれば教えていただきたいと思ったんですけども、はい。

【飯田】すいません、決まっていはいないんですが、あの規模ができるところがやっぱり限られているので、今、本当はいろんなことを考えると、東京周辺でできたらいいというのはあるんですけども、そうでないとすると、最近大きな会議をやったのは、この分野じゃないですけども、京都コンgresと

かそういう事例があるので、そういうところなら十分できるんだろうというような感じでいまして。そうでなければ、東京近辺でいい場所があったほうがやりやすいというような感じの、今パターンの中で考えている感じです。

【立石】 ああ、そうですか。ありがとうございます。まあまあ、もうそれは人数入るとなると、多分数カ所に、東京を除くと数カ所だろうとは私も思うんですけども。分かりました、ありがとうございます。

【加藤】 山崎さん、お願いします。

【山崎】 プロモーションビデオの話が出ていましたので、ICANN64の経験がそのまま生かせるか分かりませんが、日本全体としては、観光庁がつくったプロモーションビデオがありまして、あとは各地域のコンベンションビューローがつくっているものがあると思いますので、京都なら京都、東京なら東京、横浜なら横浜とかというところで、それを拝借して、くっつけてつくるということは可能です。まあ、それで皆さん満足されるかというのは別ですけども。手っ取り早くつくるということでしたら、そういうこともできるかと思えます。以上です。

【加藤】 ありがとうございます。ほかよろしいでしょうか、御質問は。

じゃあ、飯田さん、ありがとうございました。もし追加で思い出されたら、後でいらっしゃる間中、コメントをお願いします。

【飯田】 どうもありがとうございます。

【加藤】 次に、MAGの御報告ですが、ちょっとお名前見つけれなかったんですか、河内さん、参加されていらっしゃいますか。お声がないので。

【山崎】 まだのようですね、遅れて御参加ということは伺いましたので、いらした時点でご報告いただくということで、先に、その次へ進めばと。

【加藤】 そうです。もし追加で、飯田さんのほうからもしMAGのことで、何か前回から伺っていたニューヨークのエキスパートミーティング以降、何か動きがあるとかというのがあれば、MAGとしてですね、何かございますか。

【飯田】 すいません、MAGとしては、さっきのセッションの受付の話ぐらいで、あとは、その締切りがあると、その後取りまとめて何百件というあれを審査するんですね、MAGがですね。だから、今頃MAGの委員は、多分河内さんも含めて、これから1年で一番大変な時期が来るという話をしている時期なんですけれども。あとは、ちょっと最近、会合も特になく、ミスっているかもしれませんが、なかったと思うので、多分それぐらいしか御報告することはないかと思えます。

河内さんが、もしかしたら何かフォローされているかもしれません。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。それじゃあ、河内さんがもし御参加されたら、その時点で伺うということで、次に移らせていただきいただきます。

それじゃあ、このプログラムのスケジュールでいくと、前回議論の振り返りとかというのは、これはもう順次やっていけばよろしいですね。

【山崎】 はい、そう思いますが。

【加藤】 ここに書いていただいたことで、この順番でいくと。

じゃあ、プログラム委員会の状況、堀田さん、いらっしゃいました？

【山崎】 まだいらっしゃってないと思いますね。

【高松】 すいません、まだ遅れておりました、申し訳ないです。

【加藤】 どうでしょうかね。高松さんからまず開始していただいたほうがいいのか。堀田さんが割と、まだ大分時間がかかるのであれば順番を変えますか、それとも。どんなイメージですかね。

【高松】 ちょっとすいません、時間がちょっと読めなくて。順番を入れ替えて後に回していただけたらと思います。

【加藤】 今日、上村先生もいらっしゃらないですね、今。

【上村】 います。

【加藤】 上村さんからどうですか、全部堀田さんをお待ちしたほうがいいですか、上村さんからでしょうか。

【上村】 私が意識的に見ているのが、セッションの募集の件だけなので、今のところ。そのことについて、では簡単に御報告するということで、よろしいですか。

【加藤】 分かりました。はい、じゃあそういう順番でお願いします。

【上村】 前回のこの会合で、もろもろこうファイナライズしていただいたことを踏まえて、それから山崎さんにも御尽力をいただきまして、5月23日付になりますかね——違う、ごめんなさい、23日付じゃなくて別のを見ていました、失礼しました。

【加藤】 23日は、たしかこの会議の招集だったと。

【上村】 5月18日付で、そうですね。活発化チーム名義で、日本インターネットガバナンスフォーラム22における設置の提案の募集要項という、募集要項を公表して、セッションの応募を待つに至っています。

それで、まだどういう方から申込みがあったとか、問合せがあったとか、そういうことは、きっと何もないだろうと思って、山崎さんのほうにも確認をしていませんけれども、線表を引き直したこと以外は、前回の会議で決まったとおりに募集を開始していると思います。

それから、昨年度の会合で懸案になった、例えば直前までプログラムが決まらないのに、担当者と提案者と連絡がつかないといった問題を、応募の段階でクリアするような細工を幾つか入れています。

それから、サマリーも、本人というか、企画をなさった人たちに出してもらおうということで、ちゃんと終わったらサマリーも出してねということも入れておきまして、前回、いろいろと反省点はありましたけれども、その全てではないにしろ、応募の段階で、募集の段階でコントロールできることについては、割と反映して、問題が少しでも少なくなるようにしたつもりです。

それから、今後の流れですが、一応応募の期間を6月26日曜日締切りということにしていますが、何となく延ばしたほうがよいような事情もあるだろうとっておりますので、私の頭の中では2週間くらい、10日から2週間くらい延長するということもあり得るのではないかと、最初からそのように思っています。

それと、あとはそんなところですかね。応募について、募集については、以上です。

関連して、会合の公募以外のセッションの企画を始めなければならないと、始めるタイミングになっていると、考えなければならないわけですが、そちらについては、当初の思惑では、割と早目にセッションの募集をかけて締切りを設定すれば、出てきたものを見ながら、我々が決め打ちで企画するセッションのことも考えられるかなと思っていました。

ただ、ちょっと遅れぎみになってしまったので、並行して企画的なセッションのことを考えなければならないというふうに、私の頭の中では思っています。この辺の話は、プログラム委員会に新たに手を挙げてくださる方々がいるか、いないかはともかくとして、新プログラム委員会、拡大プログラム委員会が始まることと併せて、そのサブスタンスを皆さんと一緒に考え始めようと思っていたような感じですか。

あとセッションについては、前回の会合でそのテーマについても議論がなされまして、そのテーマに沿った基調講演のようなものを企画することになりますので、その辺もどういう人に、どういうことを話してもらって、みんなでどういうことを議論するのかということ、これから詰めていくような感じになっています。平たく言うと、セッションの募集を開始しましたという以上のことはまだ、見える形では進んでおりません。ただ、方針としては、今お話ししたような感じだろうと思います。

以上です。

【加藤】ありがとうございます。

プログラム委員会、拡大ということで、追加の何かボランティア、参加者があったんでしょうか、今。

【山崎】山崎ですけれども、今のところ、既にプログラム委員になられている方から1名、継続しますという御連絡あっただけで、それ以外に新規になりたいという御連絡は特にいただいておりません。

【加藤】前のリスト、たしか10人近くありましたよね、リストの数が。山崎さんが、たしか。

【山崎】そうですね、具体的な数を今覚えていませんけれども。

【加藤】上村先生、プログラム委員会として、何か会合みたいな形ではまだ進めていないんですか。

【上村】はい、会合はまだ開いておりません。

【加藤】そうですね、何か今のような募集の状況を少し把握してからかもしれないですが、何か基調講演の企画とか、全体のたてつけをどうするみたいな議論を、どこかでスタートし始めたほうがよろしいんですかね、これ。

【上村】そうですね、何というんでしょう、当日の枠の中をどう埋めるかって話までは、私はしっかりやりますので。しっかりというのか分からないですけども。

【加藤】分かりました。

【上村】そこは確実にやりますので、ちょっとそのほかのことについては、いろいろ様子を見ながらという形になって。

【加藤】分かりました。

【上村】申し訳ありません。

【加藤】あと、これ堀田さん、いらっしゃればあれですけども、メーリングリストの中で、あったかもしれないですけども、プログラム委員会の代表、副代表のような人を取りまとめるところで考えたかどうかという議論があったように思うんですが、その辺の議論、何かありますでしょうか。

【上村】議論というのは、メーリングリストで交わされている以上のことは、私は承知してないので、ないんじゃないでしょうかという。

【加藤】堀田さんは、誰かやっていただくなら、自分は副代表でもいいような何かふうに伺っているんですけども。その辺、特にまだ進展はないということですね。

【上村】はい、ないと思います。

【加藤】分かりました。じゃあ、はい。

【堀田】堀田です。

【加藤】ちょうどいらした。

【堀田】ちょうど今入りました、すみません。

【加藤】今、聞かれていたかもしれないけれども、上村先生のほうから募集のところは全部やっていただいたので、追加、堀田さんのほうでお願いいたします。

【堀田】一応タスクリストの案を、どの日ぐらいにやらなきゃいけないかというのは、プログラム委員会の中にメールでお送りしたので、これをみんなでああ、これぐらいのこと、全体としてはやらなきゃいけない、誰がやるかは別として、全体としてはこんなふうなことをやらなきゃいけないのねというのと、これ進めるには、やっぱり誰か世話役みたいな人がいたほうがいいよね、もしくはいなくていいよねという話は、プログラム委員会を早目に開いて、みんなでも共有するというのはやったほうがいいのかと思います。

【加藤】 さっき言われたタスクリストは、これまだプログラム委員会の中での配付だけなんですね。

【堀田】 そうです。

【加藤】 分かりました。ああ、タスクリストですね、はい。

堀田さんから、代表、副代表についてもプログラム委員会の中で、閉じたことなので、取りあえずそこで議論して決めればいいという、そういうふうにコメントされたと思いますけれども。そういうことであれば、状況報告を適時いただくということでもよろしいですね、この場では。

【堀田】 はい。

【加藤】 分かりました。

あと今、前回の活発化チームの議論で、大体決めなきゃいけないことは決まったと思ひまして、その結果、セッションの募集も始まったわけですからけれども。あと、日程ぐらいですか、決めなきゃいけないって意味で、活発化チームのレベルで決めなきゃいけないというのは、今、そんな感じでよろしいんでしょうかね。

【山崎】 山崎ですけれども、ここにリンク書いてありますが、アンケートを取って決めることもできますし、ただ、これは17日以降で、上村さんがたしか金、土がよいのではないかと、それに沿ってつくったフォームですので、2択でよいかどうかというあたりがまだはっきりしないので、ちょっとこれで始めていないとか、それはプログラム委員会の方に諮ってからということになりますけれども。言うていただければ、フォームのほうはつくれますので。

【加藤】 分かりました。これも手順としては、プログラム委員会で案をいただいて、最終的に承認なのか、了解なのか分かりませんが、活発化チームにも、これについてだけはまた御提案いただくということでもよろしいですね。

【山崎】 多分、それでよいと思っています。

【加藤】 前回、実績先生からも、ユースを入れる場合に、やっぱり週末とかその場合だと学校の許可も要するというのは、これは来年の話ですけれども、もし今回も少し参考にとということになると、日程、勉強していただくにもどういう日程かというのは、ちょっと配慮が必要かなというのがあったと思いますので。それで、土曜日というのも一つ候補なのかもしれませんけれども。

その辺も、プログラム委員会のほうで検討していただいて、状況を御提案いただくか、御報告いただくということでもよろしいですね、これで。

【山崎】 はい。

【加藤】 分かりました。

あと堀田さんおいでになって、追加、プログラム委員会のほうでいただくことありますか、これをさらに決めてほしいとか、こういう状況で問題があるとか、そういうことはございますか。

【堀田】堀田レベルでは特にございません。取りあえず、プログラム委員会を開いて、その中で、これは決めてもらわなきゃねというのは、出てくる可能性はゼロじゃないんですが、プログラム委員会を開くことがまずは大事かなと思います。

【加藤】分かりました。

【山崎】すいません、山崎ですけれども、1点だけ、上村さんの御発表に追加させていただきたいんですけれども。セッションの公募の応募状況ですけれども、まだ上村さんが推測なさったように、まだ1件も来ていないという状況です。以上です。

【加藤】ありがとうございます。

可能性のある方とか、それから前回やっていただいた方も、その延長と何かどうだというのは、適時情報共有していただければなという気がします。

今度の2022年のIGFも、20、21年の結果についてビルドアップして、何かあったら新しくやる、やるのかどうかなんていう、そういう項目までたしかあったと思いますけれども。そういう意味で、どんどん積み上がっていくみたいなの、そういうことというのはいいのかなと思います。

【上村】加藤さん、ちょっとプログラム委員会の構成について、質問というか提案というか、疑問なんですけれども、前回割とプログラム委員会を重い委員会にして、多分イベントの実行委員会のようなものにするということだったと思います。そういう意味では、今お入りになっていない方の中で、ぜひ入っていただくべきという方がいるんじゃないかと思うんですね。割と、やはり軽量で、私は軽量だと思っていたので、その軽量で軽い感じで声をかけていますけれども、例えば、前村さんや、御本人いないので名前を出すのは恐縮ですけれども、河内さんのような方には、やはり実行委員会の中には入っていただくべきではないかと思うんですけれども。そういうエンゲージメントというか、はまだしてないと思います。

ただ、やはり重い実行委員会になるのであれば、そういう方々にも入っていただくのがよいのではないかと思います、どんなものでしょうか。

【加藤】おっしゃるとおり、プログラム委員会はもう本当にイベントの実行委員会というか、全てをカバーすることになっているので、なるべく広い範囲の人が入れられたほうがいいので、もう一回追加の募集という形になっているわけですから。自薦他薦でいいと思うんですね。だから、他薦して今お二人名前出たので、前村さん、いかがですかということでどうでしょうか。

【前村】えっと、ちょっと最近ドキュメント書いていると、どんどんどんどん進んで、そっちの方向が何か忙しくなるということは自覚的なんですけれども。とはいっても、サブスタンスをハンドルするというのは重要なことだと思いますので、私の名前を置いていただいて、それなりに頑張って貢献するということが結構じゃないかと思います。よろしくお願いします。

あともう一つなんすけれども、重要なのは、恐らくマルチステークホルダーで構成、プログラム委員会も構成されるべきことなんじゃないのかなと思うんです。これの御配慮は、配慮はしたほうがいいのかもしいかなと思います。

【加藤】分かりました。

じゃあ、河内さんはまだいらっしゃらないので、後で伺うとして。同じように、この人をぜひという方があれば、上村先生ぜひ声かけていただいて。

前村さん、ありがとうございます。前回たしか、私は組織化のほうで大変なものと、何かコメントされたのを記憶していますけれども、ぜひよろしくお願いします。

【上村】これ、私が声をかけちゃうと、やっぱりちょっと差し障りがあると思うので、例えば活発化チームの今顔的になっている方が声をかけるほうがいいじゃないかなと、個人的には思いますが。

ちょっとこの場でいろいろ話すことでもないかもしれないので、ちょっと一つ……。

【加藤】そういう意味では、まずプログラム委員会の中でもこの人というのを、御提案いただくのがいいんじゃないですかね。メーリングリストの中でもいいですけどもね。

【上村】まあそうですね、はい。

【加藤】では、堀田さん、上村さん、このプログラム委員会に関して、秋のイベントに関してはこの程度でよろしいですか。

【堀田】私はよろしいと思います。

【上村】よろしいと思います。

【加藤】それじゃあ、次のアジェンダ項目に移りたいと思います。

NRIの組織枠組み／仕組みと申しますか、組織化の話で、これは結構議論が必要な部分というか、あると思いますけれども。まず、前村さんのほうから今の状況と、今日も5つの資料をもう一度レファレンスしていただいて見せていただいたんですが、今の状況を御説明いただけますでしょうか。

【前村】山崎さん、僕のほうで共有させてもらっていいですかね、奪っていいですか。

すみません、何でしょうね、また別のドキュメントを書いているというふうなことだと、ちゃんと酌み上がっているのかというふうなことが、ひょっとして不安に思われている方もいらっしゃるんじゃないのかなという想像もできているところなんですけれども、今日準備したドキュメント、一通り御説明しようと思います。

まず、1つ目は設立趣意書で、これはもうドラフト3番目になっていて、ちょっとこれ以上何か解説もできていかないのかなと思います。この設立趣意書の要点というか要部は、趣意なんだと思うんです、趣意とあと課題のところですね。皆さんからいただいた御指摘を、一通りカバーをした形で書いたと思っています。

それで、割と丁寧に気をつけたのは、インターネットに関連するあらゆる人々が、ここに集まってくるという必要があるというふうな意識ですね、この辺に、この辺に出てきますけれども。全てのステークホルダーが、公平な立場で参加する国内IGF活動の場を提供するというふうなことを目的にすると。

今まで、それがなくてあんまり、何でしょうね、理想的に国連IGFの精神を丁寧にフォローしてやるということが、今回一番初めてのポイントで、それが一番重要だと思うので、そういった趣意書で書けるようにしたということでもあります。

恐らくは、この趣意書自体はこういうふうなものをつくりたいんだというふうな趣意書ですから、活発化チームでもこの趣意書案なので、ほぼほぼ出来上がりにして使ってくださいというふうなことを、引き続きグループのほうにお願いするというふうなレベルのものが、これでできるんじゃないのかなと思います。というのが、この設立趣意書案です。

その次に、これは今回出したものではないんですけども、組織化案というふうなやつなんです。こちらに関しては、設立発起グループが、何にせよ運営団体の設立の主体となるので、彼らのほうで主体的に考えるべきであるということで、ここまでは活発化チームのほうでも考えたんだよということを、ワークインプログレスのドキュメントとしてお渡しするというぐらいのことなんじゃないのかなと思っています。

次に、責任分担などを明確にしていってほしいよねというふうなことで、これ国別・地域別IGFイニシアチブ(NRI)に関しては、国連IGFの事務局のほうで、IGFイニシアチブツールキット、というのは正確な文書名ではないんですけども、と呼ばれるものがここに書いてあるリンクに掲示されています。

これを一度、上から下まで読んで、NRIとしてやらなければいけないことが抜け落ちないようにというふうなことで、これはメモにしたというふうなことです。山崎のほうでいろいろと細かく、タイポなどをさらってくれていますけれども、タイプ以外のところが加わっているわけではないと思います。

NRIの目的として書き出されているもの、そしてマルチステークホルダーオーガナイズングチームという、MOTという用語を使っているんですけども、これがNRIのMAGに当たるようなところだと思います。

それと、ポイントとしてちょっと今我々の頭の中から抜け落ちているのは、地域とジェンダーのダイバーシティーが取られるほうが望ましいと、取られるべきだというようなことが書いてあって、どうするんだろうなと思いつつこれ見えています。

そして、NRIのタスクとして掲げられているものが、これだけありました。これ、全部やれなければいけないというふうな、そういうふうな拘束的なものは書いていないんですけども、NRIでやっているものはこういうことなんだよというふうなことで、1から7まで書かれていまして、大体こういうふうに番号、ナンバーされてリストされているわけではないんですけども、出したらくれくらいあったというふうなことです。

MOTのマנדートというのは、ここは原則を守りなさいということだと思います。

ポイントは、これはもう既によく議論されていますけれども、コンタクトポイントをつくりなさいと。で、コーディネーターというふうに呼ばれていますと。これは何かというと、IGF事務局やほかのNIRとの連絡のためのコンタクトポイントと、そのコンタクトポイントは、どういうふうな人たちを含めるかというのは、これは判断、自分たちで判断してよいというようなことだと。

そして、レポートを書きなさいというふうなことが、結構かきちっと書いてありまして、年次会合をコミュニティやほかのNRIに的確に報告するということが求められているということ、タイムリーに出しましょうということで、年次会合終了後の12週以内に出すというのが、一応目安として明記されていると。で、グローバルIGFの前ということなので、そうすると年次会合をいつ頃にやらなければいけないのかというのも、これに従ったほうがいいとするんだとすると、決まってくるというふうなところでもあります。

そして、NRIネットワークというのは、これはジャパンIGFのコーディネーショングループということで、NRIのメーリングリストを受けていらっしゃる方、この中にも何人もいらっしゃるんですけども、そうしていると、そういったところで連絡が入ってきますというふうなことで、今バイマンスリーだと思いましたがけれども、NRIの会議をやっていて、コーディネーターはこれに出たほうがいいと、こういったところで議論が運んでいると。

何で議論しなきゃいけないかという、グローバルIGFなどの機会、オンサイトのNRI大集合みたいなセッションをやって、そこでテーマをつくったりして議論をすると、そういったものを議論していくためのことなんですね。というわけで、NRIとして活動するためには、こういったところにも出ていくということが求められているので、今回、せっかく組織化してやるのであれば、こういうふうな機能も整えたものでやったほうがいいんじゃないのかなと思いました。というのがこのメモです。

続きまして、一つだけスプレッドシートで書いたものが、NRI活動の分担一覧ということで、これが運営団体と、今回MAGというふうに思い切って書きました、国連IGFと用語をそろえたほうがいいんじゃないかというセンスによるものです。

それで、結構細かく書き出しましたがけれども、これで網羅し切っているわけではないと思うんですけども、幾つか上げていきます、コーディネーター業務、先ほど、ツールキットからの抜き出しで書きましたけれども、コーディネーターとしてはこれくらいのことをやらなきゃいけないと、ここでは専属コーディネーターを配置するという前提で書いておりまして、運営団体がやるべきだと。我々のような、活発化チームに集まっているような手弁当でやっている人たちでやると、ちょっとこれはヘビーだと思うので、これを専属でコーディネーター業務をやるというのを運営団体に求めるぐらいが、バランスなんじゃないのかなと思います。

もちろん、理想的に物事が整わなければ、どんどんどんどん縮退していくというようなところはあろうと思います。1番がコーディネーター業務。

2番がウェブサイトやメーリングリストの運営ということで、これは自分でテクニカルに運営するというよりも、外注管理をして、あとコンテンツを掲示していくというふうな仕事なんだろうと思います。

組織の運営、運営団体の組織運営ということで、総会、理事会やMAG事務局業務と、MAGというのは、コミュニティ会議体としてつくるものに関しても、資料の準備をして招集して、当日の運営をして議事録の作成をするというところを、運営団体をお願いするのがいいんじゃないかと思っているということです。

そして、年次会合の運営と。なんですけれども、これが一つ、かさとしては、大きいんですけども、

会合の企画自体というのは、これは恐らくMAGというのか、コミュニティー側でやるんだらうと。日程調整というのは、結局そのコミュニティー側も、この辺がいいというのは言うんでしょうが、取り回すのは事務、運営団体じゃないかと。

プログラム構成に関しては、コミュニティーのほうに委ねられているべきなんじゃないかと、事務を担当するというのが、運営団体のやることなんじゃないかと。

事前準備は、告知や参加登録受付管理ということが発生するだらうと。

当日運営なんですけれども、会場手配や配信手配、ちょっとハイブリッドを意識していく必要があるんだらうと思います。会場運営とオンラインの運営、どちらもこれは事務のほうでやるべき、事務というのか運営団体のほうでやるべきなんじゃないのかと。

あと、協賛をもし、イベントに対して協賛を得るといことなのであればなんですけれども、これは別のセンスとしては、運営団体の会員、会員の皆さんが支払う会費で賄うというセンスがあるのかもしれないです。ですけれども、協賛管理というのがあるかなと。

で、(5)、(6)なんですけれども、ツールキットに書いてあって、できればやったほうが良いというふうなレベルのことを、アウトリーチと能力開発の活動です。これに関しては、働きかけを誰にすればいいのかとか、働きかけ実際にやるというのも、事務局は事務的なサポートをするということで、支援はするのかもしれないんですけれども、コミュニティー側が第一義的にはやるのかなというイメージで、ここが書いてあります。

そして、能力開発なんですけれども、能力開発のどういったプログラムをしていくかというのは、コミュニティー側で考えることでしよう。

それが、企画が大体出来上がった段階から、実施計画や運営の事務というのは、運営団体のほうでやるのかなというふうなことで、こういうふうな役割分担を一応書いてみました。

これ書き始めると、前回の会合でいろいろと御指摘をいただいた責任分界があやふやだというのが、こういった書き出しをすることで明確になっているのか、アドレスできているかどうかというのが、ちょっと分からなくなって、自分の世界観にちょっと入ってしましまして。そこら辺のことを確認していきたい、いただきたいと思います。

そして、あとフォーラムチャーター案という言葉に、そのまま反応して書いたものがこれなんですけど、これは基本的には活発化チームのチャーターをそのまま書き直した感じで書きました。多くのところは、活発化チームのチャーターがそのまま使われています。若干敬語、敬体に直しましたよとかというのはあるんですけれども。

その中で一つ、活発化チームのものから変わっているところは、原則の中にAからEまであったんですけれども、それにFを付け加えました。これは、IGFのなり、なりがノンバイディングな対話の場だというふうなこと、これはチュニスアジェンダのほうにもたたき出されて、打ち出されているものなので、これに関しても、明確に書くということが重要なんじゃないのかなと思いましたので、Fを追加しています。

そして、組織構成のところは、一つフォーラム運営団体というふうなことを書きまして、組織化される、運営団体の存在というものをここに書き出しています。メール、加藤さんからの御質問に対して答えたメールでも書きましたが、同様なものは運営団体のほうの書き物としても恐らくは、フォーラムを何らかの会議体として定めて、拘束というのか、どういうふうな権能を持たせるのかというのは書くべきなんじゃないのかなと思いますので、そちらはまだちょっと現在のところ手がついていないというところでは。

フォーラムの中で、プログラムを検討するということのツールキットでいうMOT、マルチステークホルダーオーガナイズングチームというものをMAGというふうな名前、ここでは仮置きしています。先ほど申しましたけれども、国連IGFの言葉遣いと合わせたほうが良いというセンスです。

MAGに関して、この中身というのは、これじゃなきゃだめだと思っているわけではないんですけれども、4つのステークホルダーセグメントから出して、同数を出すというふうなところは、恐らくは国連IGFを意識してつくらなきゃいけないだろうと思います。それをどこから出してくるかという、フォーラムに集まっているメンバーの皆さんから選任するんだだろうと思います。メンバーから推薦という形で、コミュニティからの考えを聴取するということが運営上重要です。

そして、MAGのメンバーを指名するというポイントは、これは運営団体の理事会とここではしていません。多分、それくらいの権限が運営団体にあるということはあるべきかなと思っていて、バランスは調整する必要があるかもしれません。

活動に関しては、メーリングリストは、NRIにはメーリングリストが必要だとどこにも書いてないので、これを取り去ることもできるのかもしれないんですけれども、ここではメーリングリストを取りあえずつけています。

それと、年次会合というところまでは書き出して、先ほどの責任分担のところでは、アウトリーチとか能力開発とかは書いたんですけれども、もしやるんだったら分担はこうなんじゃないかというふうに考えたからなんですけれども、ベース、ボトムラインとしては、年次会合ができるというところにあるんだと思います。

ということで、それ以外はフォーラム運営団体、つまり運営サイドとして、予算を持って事に当たるところが余裕があればできるだろうしと、そういうふうなことだと思います。

そして、その他のところで、チャーターの改定、運用をどう書くかというのは、ちょっと昨日時点では想像が、アイデアが出ませんでして、ここ書いていません。

過去の国内IGF活動として、IGF-JapanとIGCJを書いたんですけれども、ここに、今あるJapan IGFを付け加えるというのもありであろうかと思っています。これを明示的に解散して、本フォーラムを後継活動とすることとしますというふうに明記をするというのは、これは上村さんの御指摘、上村さん以外からもあったと思いますけれども、この明記は重要なことだと思います。

そして、メンバーの除名というのは、これは何らかの形で、活発化チームのときにも付け加えたように、これはできるようにチャーターで書いておくというのは重要。

そして、メンバーの除名だけに関しては、非拘束の対話の場というふうな中で、決められることとして例外をしたということで、こういった形でこういうフォーラムをつくらうとしているんですよということを明記するというのを、フォーラムチャーター案を書くことによってできたんだろうなと思います。

そうすると、こういうフォーラムができれば、活発化チームとしては、それがやりたいことだというのであれば、それ以外のポイントというのは、国連IGFの、IGFの活動原則とか、そういったものに則るということは重要だと思うんですけども、あんまりないんじゃないのかなというふうな想像をしてしまいました。

したがって、申し送り文章、申し送り書みたいなのを、別途書こうとして書けなかったというのは、何かその辺に理由があるということです。

そして、こういうふうなフォーラムチャーターを書く上で、運営団体とフォーラムの関係というのを、少し書き出してみましたというふうな状態です。運営団体をここまでフォーラムと分け隔てる必要が果たしてあるのかというふうなことは、加藤さんの御指摘いただいたんですけども、確かにそれもこんなにこಂಡけ離したら仲悪みたいじゃないかみたいな感じにも見えなくはないので、ただ責任関係みたいなのを書く上では、こういったものを見ながら、これでいいのかなというふうな、検証するというのは重要なんじゃないのかなと思います。

というわけで、組織化に関して、フォーラム、コミュニティー側と運営団体の責任分界を考えるとということで、それを軸にして実際、どういうふうな業務をNRIとしてやらなきゃいけないのかというふうなところの明確化というのはできたと思います。

これを見て、ほかにもこれが抜けているとかということをお今日は御議論いただいて、御指摘いただいたことを反映すれば、合意できるレベルのものになるのかなというふうなことを、少し希望的観測で考えています。

そういうわけなので、皆さんからのお気づきの点などを伺ってまいりたいと思います。よろしく願います。

【加藤】 どうも前村さん、ありがとうございます。いろんなものが一気に入ってきたので、なかなかすぐ頭に入ったかどうかあれですけども、御質問とか御意見とかございますか、まず何でも言ういただければと思います。

【堀田】 堀田です。大変ありがとうございます。整理が、頭の整理が進みました。

最後に出していた、今見えている図なんですけれども、左側の運営団体というのは、マルチステークホルダーの会員ですか、それとも理事会がマルチステークホルダーであればいいんですかね。

【前村】 マルチステークホルダーとインクルーシブネスって、結構両立難しいなと書きながら思ってたんですけども。会員にはいろんな方々が集まっていた方がいいという一方で、恐らく理事会はマルチステークホルダー構成じゃないのかなというふうなのが、頭の中にあることです。

【堀田】 うん、ということは、会員でなくても理事になれる？

【前村】 それは決め方だろうなと思います。どちらもありますよね。じゃあJPNICの場合には、理事会指名というのがあって、会員推薦でなくてもいいというところもありますし、いろいろありますよね。

【堀田】 うん、というのは、だから運営団体の定款に書き込まれるんですね。

【前村】 そうですね、書き込まなきゃいけないことですね。

【堀田】 分かりました。

それから、この指名って書いてあるのは多分指名じゃなくて、承認なのかなと思いますね。形式的には指名なのかもしれないですけども、要は右側、右側でシェアを選び、かつフォーラムチャーターの改定も、必要だったら右側が考えて、左側がいいんじゃないというという形が理想かなと思いました。

多分、右と左は同じような考えを持った人がやるから、ガチンコになることはないんだけども、形式的には右側が裁量を持って動いているというふうになっていたほうが、形はいいのかなと思いました。

【前村】 なるほど。

【堀田】 まずはそういうところですかね。あともう一個、このフォーラム、右側に、除名行為というのはいるんですかね。

【前村】 ああ、なるほど。

【堀田】 活発化チームは、除名行為というのはあってもいいと思うんですけども、今のこのフォーラムというのはみんなで議論する場なので、邪魔する人は、おまえはステークホルダーじゃないという権限があるのかというのは、ちょっと気になりましたね。

【前村】 そうか、なるほどね。分かりました。ICANNとかはエクスペクテッドスタンド、スタンダードエクスペクテッドビヘイビアーでしたっけ、そういうことが書いてあって、それに従ってください。

下が、つまりはそれに従わない場合には、参加しないでくださいというふうをお願いしているという状態ですよね。そうですね、うん。

【堀田】 ちょっと気になったというだけで、必ず除名すべきでないとはまずは、私も言い切れないんですけども。

【前村】 そうかもしれません、ありがとうございます。

【堀田】 IGFなんかは、IGFの会議の場に来る人が、IGF反対といった人が来てもいいんですよ、きつとね。

【前村】 コードオブコンダクトを守れていっているんで、コードオブコンダクトコンタクトに書いていないこと、書いてあることはやっちゃダメだけれどもという感じです。

【堀田】 ああ、そういうことですね。だから、みんなが議論をする場を邪魔するとか、そういうやつ

は追い出してもいいのかもしれないですけども。ありがとうございます。

【前村】立石さんの何か手が拳がっていたような。

【立石】今、さっきそういうお話だったんでいいんですけども、やっぱりあんまりないとは思いますがけれども、反社会的勢力云々とかそういうがあるので、中身の邪魔する、しないというよりも、何かもうちょっと別の要因で、そういうのがゼロではないと思うんですよね、あんまりないとは思いますがけれども。

一応そういうのは、そういう反社会云々みたいな定義だと、別に邪魔にはならないし、何かあったときにそういうのないじゃんって、逆に言われる可能性もあるので、何かそういうものは入れておいてもいいのかなとは思いました。以上です。

【前村】ということは。今の除名条項は少しきついかない感じですか。そういうこともないですか。

【立石】うーん、どう、まあ堀田さんがおっしゃる意味でいえば、ちょっときついのかもしれないかなという気はしますけれどもね。

【前村】ありがとうございます。あと堀田さん、すいません、指名って書いてあったけれども、ここは実は何だって、何なんじゃない、何とかだよなっておっしゃったと思うんですけども、何ておっしゃいました。すいません。

【加藤】承認とおっしゃいましたよ。

【前村】承認でしたっけ。

【堀田】はい、承認と言いました、はい。

【前村】ちょっと、そうですね、これ書きながら思ったことは、フォーラム側で何かを決めるということはないんじゃないかなと思いつつながら書いたんですよ。

今のIGFは、IGFに集う人々の中で何かを決めることはなくて、MAGというのは国連事務局が何かちょっと、ちょっと謎な、謎なノミネーションスキームなんですけれども、細部を見るとですね、市民社会は市民社会の某メーリングリストの上で決めていますし、技術コミュニティーは技術コミュニティーを代表すると自認しているグループが請け負っている、ISOCの一部のメンバーみたいなことなんですけれども。

なんていうことで、ちょっとその辺は少し、何でしょうね、ちょっとよく分からない、余りクリアじゃないということが起こっているんですけども。フォーラムに何かを決められないんじゃないのかなと思ったんですね、メンバーシップ、メーリングリストに入っている人がメンバーだというふうな形での集合はできるんですけども、意思決定ができる構造にフォーラムはならないんじゃないのかなと思ったんですね、ということなんです。

【加藤】これ、前村さん、堀田さん、すごい重要なところだと思うんですけども。僕もちょっとこれを拝見して、候補を推薦して、MAG側でチェアは互選とかという、こう書いてある部分、まず候補推薦

のプロセスって、フォーラムって一般の多数から推薦ってどういう形でやるんだらうと。それで、その中から誰だって決めるのはどう決める、一応彼らが決めて、それを堀田さんが言われるように承認となると思うんですけども、どう決めたというプロセスを、フォーラム側でできないんですよ、この構造だと。

【前村】そうですね、ここでは堀田さんのおっしゃり方と、私が今思っていることというのは違うんですよ。候補の推薦というのは、恐らくはこれ矢印をMAGに寄せ、向けちゃいましたけれども、運営団体がMAGのメンバーを募集しますって言い始めるんだと思うんですよ。で、締切りはいつまでですというので、ノミネーションが何か何十件か出てきて、恐らくはステークホルダーセグメントごとに、2人なり3人、今回の書き物では2人って書きましたけれども、というのを理事会が選ぶと。

そうすると、マルチステークホルダーのイコールフットィングなMAGが出来上がるというのが、私がここに書き出したことです。

それで、フォーラムの中で、フォーラムの意思としてMAGが選ばれるとすれば、そのプロセスはちょっと私の頭の中には想像はできません、今のところ。

【加藤】堀田さんのおっしゃる意味、本当にうまくそこ書けるといいなと思うんですね。理事会が何かこうコントロールしているんじゃないという形にできるといいと思うんですけども。

一方、物理的にそれがフォーラム側で決めて、この人だって、だから承認、これでいいでしょうというプロセスができないので、結局、指名というか、候補の中から選任するということなのかもしれないんですけども。それは理事会というか、運営団体側になるんでしょうね、今のIGFもそういうことですよ、結局。そこを……。

【前村】上村さんの手が挙がっていますね。

【加藤】はい、上村さん。

【上村】メンバーの除名の件、私もちょっと、おやっと思ったんですけども。そもそもメンバーが誰なのかがよく分からないので、除名もできないんじゃないかと思うんですね。MAGの構成員を除名するとか、あるいはそのMAGが設置した委員会のメンバーから除名するができて、ここでいうメンバーが誰なのかがよく分からないので。

【前村】はい、ちょっと今の書き物で説明をすると、どこだっけ。

【上村】ただ、すぐに答えを求めるものではないので。

【前村】すいません、すぐに答えられる答えはあって、フォーラムのメンバーというのは、恐らくメーリングリストに加入した人をメンバーとするのであって、そこから除名をするというのは、メーリングリストから外すということだと思います。

【上村】ああ、じゃあもう全然違いますよね、それ。フォーラムは、メンバーがあるべきものではないと思うので。メーリングリストはあってもいいと思いますし、そのメーリングリストから外されるという条件はあっていいと思うんですけども。そのフォーラムのメンバーではないと思います。

【前村】それは一つ、分かりやすい定義だと思います。

【上村】では、そういうことであれば、はい、するといいと思いました。

それから、その上の過去の国内IGF活動について、私ここがはっきり示されるというのは大変よいことだと思ひまして、そのように前から指摘していましたが。ちょっとプログラム委員会で、私がいまいちこう、本腰が入れないのは、まさに過去との関係がはっきりしてないからでして。この前提で、当事者というのがIGFジャパンと、IGCJが動けるんだっただらすごくよいと思ひます。

そういう意味では、過去のインターネットガバナンス関連活動よりは、何かもう少し決め打ちで、この2つの活動と言ってしまったほうがいいんじゃないかなと思ひました。

それともう一つ、とはいえ他人のことなので、後継活動とすることとしますという言い方が果たして適切なのかどうかというのは、ちょっと、まあでも実質的に同じ人が同じだと思ひてやっているかもしれないけれども、ちょっと事情を知らない人が読むと、もやっとするのかもしれないと思ひました。

あともう一つ、何だったかな、関係ですね、フォーラムと運営組織の関係ですけれども、先ほど承認とか指名とかそういう話がありましたけれども、承認も指名も、運営団体のほうが優越しているという多分発想なので、何か同意ぐらいじゃないかなって私は思っただです。あやかもしれません。

恐らく例えるなら、APrIGFとドットアジアの関係に近くなるんだと思ひますよね。ですから、ちょっと彼らのやり口を見ていると、決して指名とか承認とかはしてないと思ひるので。何ていうんですたっけ、コンセンサスじゃなくて、コンカレンスじゃなくて、何かそういう同意かなと思ひました。以上です。

【前村】ありがとうございます。ドットアジア、APrIGFとドットアジアの関係というのは、またちょっとあれも妙味で、ドットアジアはドットアジアドメイン名を売った収益で、収益からああいうものをサブサイズとかファンドしているわけですよ。なので、あまりそこはこだわらなくていいポイントだとか、譲歩ができるポイントなんだろうなと思ひますよね。

それで、この運営団体というのは、会員が投じる会費で成り立っているというところがちょっとポイントで、まあそうは言っても、そんなに優位に立つような書き方をしなくてもいいんじゃないかというのは、いいんじゃないかということもあり得るなと思ひました。ありがとうございます。

【上村】前村さん、確かにもうけをフォーラムの運営に充てているというのは、そのとおりだと思ひますけれども、でもそれはそれ、これはこれで、その話は分けないと、運営団体とフォーラムの関係は、それはそれでちゃんと定義すべきことのような気がしますので。でも、同意ぐらいが妥当だと思ひただけならば、それがよいかもしれません。以上です。

【加藤】あと御意見、御質問ありますでしょうか。

もう一回よく読んで、細かいところのコメントはまた、それでよろしいですよ、日程的に前村さん、今日全部細かいところまで……。

【前村】ロードマップ、ロードマップいわくは次回の会合ぐらいで決まれば、一応オンスケジュールだ

というふうに読めるというのか、今日決まるかもしれないけれどもという矢印と、もう一回やるんじゃないのという短い矢印と書いてあったのですね。その短い矢印を適用すれば、次回までに考えて決まっていけばいいのかなと思います。

【加藤】 ちょっと私から全体的な質問なんですけれども、一番最初の趣意書をさらにアップデートしていただいたのがあったと思うんですが、趣意書で今回、何かをつくり出すという設立趣意書は、この運営団体をつくるのか、フォーラムも含めてつくるのか、恐らく全部を作ることなんですよ、こういう構造でということだと思っただけなんです。

だから、設立趣意書って言って、なんか法人をつくるためだけに、もともとそういうことで書き始めていたんだと思うんですけれども、そのこのところが、そのフォーラムって非常に重要な活動、活動そのものがあるということを明記して、その全体を今回提案しています。

会社をつくる法人は、その運営団体をつくるのであって、実際の活動は外でやりますよって、これ参加していただく人に、何だ、自分のお金出して何かやっても、実際はあいつらが全部やるのかというのか、何も意見反映されないのかとか、そんな議論にならないように、その趣旨を紙にどこまで書くかは別にして、明確にされたほうがいいのかなと。

だから、そういう意味では、趣意書の添付に、先ほどの運営団体とフォーラムの関係図みたいなものくつつけるか、何かちょっとその辺工夫したほうがいいのかなと思いました。

それと、先ほど上村さんも御指摘のとおり、組織間とか定款の案みたいな、これはあくまで発起人チーム、団体の発起人のチームに、こんな考えがありましたということでお渡しするという、そういう御主旨ですね。

【前村】 私もそう思っています、はい。

【加藤】 その中で、その団体の理事をどう決めるとかというのもあったけれども、まだ最終というよりは、そういう方向性でということだと思っただけなんです。そういう意味で、この紙はかなり前から前村さんが配付されていたので、この場では細かいところがもう全部承認されたということではないけれども、大体こういう方向性で、これをお渡しすると、もう一回次回までに、ここは絶対おかしいとかというのがあればいいですけども、今日は大体そういう方向性で渡すものだ。これに拘束されることはないけれども、そういう趣旨ですということを、活発化チームで確認したということでもよろしいでしょうか。

【前村】 そういったことを、私の意図はそういうことです。正しいです。

【加藤】 分かりました。

それと、あと運営団体とフォーラムの関係図の前に、お互いがやることというのがあったと思うんですが、実際のところ、ここで書かれているフォーラムって、MAGの8人以外は今何も実態がないんですよね。

【前村】 そうですね、はい。

【加藤】 その人たちが、これをやるということを実際にどこまでやれるかというのが、どちらが

分担表というのが、あれ、そういう目でかなり見ていかないと、実はMAGとこの団体の関係者とか理事とか、一部ダブったりする可能性もあると思いますが、その辺で、役割分担って1個ずつ見ていかないといけないのかなという気が、僕はちょっとしました。

特に、運営の次の今のちょっと見せていただいて、もう一回見せていただけますか、丸がついている、もうちょっと先の下の方ですね。スクロールしていただいて。例えばプログラムのところとか、この辺をやるということで。それじゃあフォーラムというのは、プログラム委員会、今秋のプログラム委員会、やっていただくのとほぼ同じような構成になるんですかということですよ。

そうすると、多分MAGというだけじゃなくて、その下にプログラム委員会はMAGが適時つくるとか、そんなイメージになると思うので、今の段階ではそれ書けないにしても、フォーラム持ってもう少し、そういう活動の実態があるみたいな何か絵を描いていったほうがいいのかなと。適時、項目に応じて先ほどの図の中でフォーラム、運営団体とフォーラムの関係の図の中にも、適時、プログラム委員会のようなものを、その中で、フォーラム側でやっていくみたいなのがあったほうがいいのかなという気がしました。

これだけだと、MAGプラス一般大衆という格好になっちゃいますよね。

【前村】そうですね。これは、国連IGFを結構色濃くというのか、意識をして、同じようなものをつくらうという頭でつくっているの、そうするとIGFってMAG以外は本当にみんなじゃないですか。

【加藤】そうなんですけれども、MAGに最近いろんな分科会ができて、かつMAGも人数すごく多いですから。

【前村】めちゃくちゃ多いですからね。

【加藤】めちゃくちゃ多いし、MAGを支えている人たちがいろいろドラフト出してくれるという、そういう実態があるので、国連はそれで成り立つんですけども、実際フォーラムって言っている人たちがみんなそういうドキュメントを書いたり、プログラム委員会の今やっていただいているようなことをやっていけるかというところを、立ち上げまで、相当運営団体の事務局側のサポートが必要になるし。

そういう意味で、形としてこういうふうに2つに分かれているけれども、実態はかなりダブって一緒にやっていかなきゃいけないという、そういう気がするんですね。だとすると、あまりこう2つが、最初前村さん言われたように2つに分かれているみたいな形で、こっちが全部やるんだみたいな、分担表だけではうまくいかないの、ちょっとその分担の仕方の書き方は注意しないといけないかなって気はします。

【前村】ありがとうございます、そうですね。

【加藤】そういう意味では、もう一回それを皆さん、今から3週間だと思いますけれども、その間に見ていただいて、ここは建前はこうだけれどもこちらがサポートするとか、そういうようなコメントを書かれたらどうかなという気がしました。

【前村】はい。これ書いていて思ったことは、何でしょうね、運営団体の理事会議長が偉いのか、MAG

チェアが偉いのか分からないなということ、素朴に思ったんですね。

もう一つは、運営団体の役員とMAGは兼任できるのか、するべきでないのか、してもいいのか何なのかというあたりというのは、もう一思案必要だなと。その辺のどういうふうな交わり方と、位置関係と、何かこうセパレーションなりを決めなきゃいけないのかというあたりが、まだまだちょっと練れていないなと思っているところで。

皆さんからもいろいろと、お気づきのところを御指摘いただければと思うところです。

【加藤】前に議論している理事会というか、運営団体の理事会というのは、本当にこう管理的なことをやって、中身について全部MAGに任せるという基本スタンスだと思うんですね。

【前村】はい、そうだと思います。

【加藤】だから、権限がそうやって分かれていて、理事会がそんなに中身について口出せないようになっていけば、ある程度の兼務を認めないと、人が足りなくなっちゃう。事務局も含めてですね、立ち上がり時点はね。段々、軌道に乗ってくれば、複数の人が分担できると思うんですけども。

【前村】ちょっとその、そうなんです。セパレーションが何で必要なのかというのの要諦が何か分かってないものですから、どれだけ混ぜてもいいのかというのが、ちょっと頭の中で見当がつかなかったというのは、これちょっと今今の偽らざる気持ちというのか、状態です。

【加藤】僕は少なくとも構造がこうなっていれば、両方やることは何か問題、これがコンフリクトだとか、そういうことはないような気がしますけれども。

上村さん、手を挙げていただいて。

【上村】どちらか、どちらが偉いかという件についてですけども、やはり日本ふうには、業界団体方式で進めることになったわけですから、業界団体として見える、山上の企業の方には運営団体が偉いように見えたほうがいいのか、インターネットコミュニティにはフォーラムのほうが偉いように見えたほうがいいのかと思うので。

【前村】玉虫色に書く。

【上村】まあ玉虫色というか、のような感じでしょうがないと、無理はないと思います。

それから、ちょっと気になったんですけども、その運営団体には確かに事務局があると思いますけれども、そのフォーラムの事務局を務めるのがそもそも運営団体ですよ。

【前村】そうですね、はい。

【上村】ですから、事務局からフォーラムに対して運営役務の提供って書いてありますけれども、これは運営団体がフォーラムに対して運営役務を提供するという、形式的には異なることなのではないかなと思うので、ちょっとその2つの事務局の意味が混在しないようにするとよいと思いました。

【前村】なるほど。

【加藤】この線が、事務局からじゃなくて運営団体から出てればいいということですか。

【上村】そうですね、それであれば、はい。

【加藤】そういう意味で、上村先生が言われるのは本当に重要で、やっぱり指名なのか、僕も選任っていったけれども、何かいい方法ないですかね。指名するっていったら何か指名する側が何か上に立ちちゃうみたいに聞こえるし、選任でも。

【前村】英語的にはエンドースメントとかですかね。

【加藤】だから、エンドースだったら、さっき言ったところに戻って、候補、推薦というプロセスがフォーラム側に必要になるわけです。それが、明確にできないということですよ。

【上村】私の頭の中にあったのは、(米国の)上院の同意人事なんですけれども。あれは、同意ですよ。

【加藤】いや、だからフォーラムが上院のように100人の議員がいて、その人たちが投票するという形になってないからいけないんですよ。それができないわけですよ。

【上村】どちらかという、同意するのは運営団体のほうで、フォーラムが提案したチェアに対して、運営団体が、ああ、いいよって言うとか、そんなイメージでした。なので、フォーラムが議会というよりは、運営団体のほうが議会の役割を果たすということじゃないかと、このチェアの選任について思った次第です。

【前村】なるほど。

【堀田】堀田です。

【前村】お願いします。

【堀田】今の右側のMAGのチェアを選ぶところですけども、これはAPrIGFを例にとると、あれってフォーラムというこの一般大衆の中から、私ちゃんと仕事しますって手を挙げて、ちゃんと仕事をするの定義を決めてやって、MAGの会議に2回に1回は必ず出るとか、例えばその定義が決まってあって、MAG自身が自薦なんですね。で、実際にMAGのチェアは、MAGの中で選挙していますというような方式もあるのかもしれないですね。

だから2名ずつ、理事会が指名するMAGという形ではなくて、フォーラムの中で自動的につくられ、MAGというのがつくられその中で選挙して、誰がチェア、誰がサブチェアというのを提案し、理事会が形的には承認するという方法もなくはないかと、見て思いました。

【前村】APrは、そうか、誰かが認めてMSG (Multi-stakeholder Steering Group)に入るって感じじゃないでしょうね、名乗りを上げる、名乗りを上げた自動的に入るんですものね。

【堀田】そうですね。

【前村】そうですね。

【堀田】ただ、そのスレッシュホールドがあって、これ以上のことをやらないと自動的に首になっていくという。すると、多分今30人ぐらいいるんじゃないですかね、MSGの中に。という方法もあるかなというふうに聞いていました。

【前村】そうですね、そうするとフォーラム、うーん、そうか、フォーラムはフォーラムで勝手にやっていると。で、同意、同意するという一応ジェスチャーは定義ができる。そうですね、そうすると運営団体からかなり独立したものができるとい形にはなるということですね。

【堀田】そうですね。

【加藤】実際、それで運用できるって、皆さん考えるなら、私もそのほうが、さっき上村先生が言われたアメリカの上院の承認の（やり方）がいいと思うのです。アメリカの上院は、大体民主党と共和党で対立して、それだけで決まっちゃう問題もあるけれども、その形のほうがお互いいい距離感で、いいような気がするんですけれどもね。APriIGFのところまで行けるかどうかですね。

【堀田】堀田ですけれども。活発化チームに今100人いますけれども、そのうち1割、2割が手を挙げてくれば、形が取れる、格好はつくんですかね。ある程度、コミットしていいよという人がね。

【前村】なるほどね、いいですね。何かすごくしっくりきますね、しっくりきました。

【加藤】それをたたき台にしてみますか、それで。

【前村】はい。

【加藤】やっぱり本当のIGFってそういうものですよ。

【前村】うん。はい、ありがとうございます。

【加藤】ほかありますか。もしよろしければ、今日のような議論を踏まえて、前村さんにさらに皆さんからコメントいただいて、3週間後に、大きな方向性を決めるということでもよろしいでしょうか。

【前村】小まめに、今日いただいた御意見は、必ず今週中に、今週早いうちに、次のバージョンをつくってお見せするというふうな形で、議論積み上げられるようにしていこうと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。

【加藤】それじゃあ、時間の問題もあるので、次のアジェンダに進ませていただきますが、河内さんは参加されていますか。まだいらっしゃらないですね。

【山崎】まだいらっしゃっていないですね。

【加藤】さっきの飯田さんの話もあって、恐らくMAGで前回以降、何かMAGとしての大きな動きはなかったのかなと思っています。

それでは、ユース活動、これは山崎さんが案をつくっていただいたので、山崎さん、お願いできますでしょうか。

【山崎】手短に行きたいと思います。

ユース活動をすることは、限りなく必須なんじゃないかという気が、グローバルIGFを見ているとしていまして。というのは、毎年、IGF、グローバルIGFの場で、ユースイベントもあるということで、日本でやる場合に、日本がかなり積極的に参加するユースイベントを開催する必要があるんじゃないかと思っています。ということで、もう今から準備してぎりぎりじゃないかと思いました。

目的ですけれども、グローバル、地域で国内のIGF活動に参加する次世代の人たちを育成するというのが目的です。それに当たっては、まずは既存のイベントに、日本から若い人たちを送り込むと。その中でも最終的なゴールは、IGF2023のユースイベントに送り込んで、そこで参加だけじゃなくて、発言、議論もしていただくというのが、最終ゴールです。

それから逆算していきますと、その年の国内の事前会合にユースが発表する。APriIGF併設のユースIGFで、日本のユースが参加。それから1年ぐらい前になりますけれども、今年2022年の国内の事前会合にユースが参加。それらと並行して、何かお勉強しないと、単に会議に参加してくださいというだけだと十分ではないと思いますので、若者が勉強できるような枠組みを構築するというのが必要かなと思っています。

具体的には、月一ぐらいのペースで、お勉強セッションを開催するということが必要かなと思っています。

たてつけなんですけれども、これはIGF事務局が作成したユースエンゲージメントという文書がありまして、そこに4つモデルが書いてあるんですが、この中からは1じゃないかなと私は思いましたけれども、必ずしも1でなければいけないというわけではなくて、この中で一番ふさわしいモデルを使えばよいと思います。

スケジュールですけれども、さっき一通り言ったので繰り返しません、最終的なゴールは、IGF2023のユースイベントに選ばれたユースの方が参加する、必要ならばユースイベント、同時開催のユースイベントを企画実行するというのも、それに寄与するということが必要かなと思います。

逆算していきますと、今年、夏秋ぐらいには、対象者を募集して選定しなければいけないんじゃないかなと思います。

これに当たっては、かなりいろんな方面にエンゲージしないと、そもそもこれをやっているということもなかなか、対象になり得る若い方に知ってもらえないというのがありますので、その国内の教育機関と協力しなきゃいけないと、それがちょっとこの中に漏れていますけれども、それがまず、第一ですね。

あとは、国内外のそういう組織とも協力、広めてもらわなきゃいけないということになるかと思っています。ちょっとこの辺りは、どこと協力するのがいいのか、ちょっと私はこういうのがあるというのを聞きかじっただけで、あまりぴんと来ていませんので、実際にこういったところと一緒に数をやっていらっしゃる皆さんに、お伺いしたいと思います。

ちょっと飯田さんがいらっしゃらないので、また追ってメールでお伺いしたほうがいいと思います。

れども、IGF2023でユースワークはどうするかというのは、例えばIGF事務局とか日本政府とかでお考えがあれば、それを伺ってすり合わせ、場合によっては参加するということが必要になってくるかなと思います。

お勉強というか教育セッションですけれども、ここは堀田さんからコメントいただきましたが、月1回計10回ぐらいかなと思っっているんですけども、能力開発セッションを実施して、そのうち3回ぐらいは遠隔でみっちりワークショップをやると、それ以外は録画しておいて、参加者が見たいときに見れるようにするというような感じがいいのかなと思っております。

内容については、IGF事務局がつくった、IGF事務局じゃないですね、AP支部、AP地域のスクールオブインターネットガバナンスというプロジェクトが大分前からありまして、そこに書いてある、このレポートに書いてあるものを拝借しましたけれども、かなり広い範囲にわたりますので、ここにいらっしゃる皆さんだけでできないかもしれないんで、そうしますと外部の方にお問い合わせの必要が、ひよっとしたら出てくるかもしれません。

その次は、募集要項の案ですけれども、若干名ということで、最大10人ぐらいかなと思っっているんですけども、対象については、高松さんが御指摘いただいたように、35歳以下ぐらいが妥当じゃないかなと思うんですけども、下は明確に決めないで、18歳未満の場合は保護者、もしくは学校の先生の監督下であればよいというような、多少緩くするのがいいんじゃないかなと思っった次第です。

あとは、まあもうちょっといろいろな枠をはめる内容ですね、こんな感じかなと思っっているんですけども。

あとは最初に出てきました、モデル1から4の詳細について、IGFの文章から機械翻訳したものです。

大体こんな感じかと思うんですけども、既にコメントは幾つかいただいているんですけども、御質問とかあれば、もしくは御意見があればよろしくお願ひします。私からは以上です。

【加藤】ありがとうございます。御質問、御意見はいかがでしょうか。

すぐなれば、私、山崎さん、1つ、2つ、伺ってよろしいですか。

【山崎】ぜひ、どうぞ。

【加藤】先ほどの1から4のうち、まあ1でしょうというのは、私も現在の状況からいうと、モデル1かなという気はします、まだこれからなので、NRI活動で、中で支援しながらユース活動を支援、立ち上げていくということですけども。モデル2とか3に、いろんな国で、まあもうそういうふうに行っているところもあるので、2とか3が将来に進むということは、否定しないということでもよろしいですね。今は1としてスタートするということ。

【山崎】はい、それは皆さんのコンセンサスによっては、もちろん動くと思っますので、何が何でも1というものではありません。

【加藤】いや、当面1というのは賛成なんですよ、現実的だし。だけど、もっととどんとやるなら、それはそれでユースが、むしろ本家に乗っ取るぐらいになればいいのかなという気もするので。そういう可

能性を否定しないというだけなんですけれども。

【山崎】 はい、それは私も全く同意します。

【加藤】 それと、先ほどの教育ですけれども、最大10名って書いていたのですが、これ、ネットでやる場合、10名以上出来るのかなという素朴な疑問を持ったんですが。

【山崎】 もちろんですね。ですから、堀田さんが御提案なさっていたのは、遠隔で少人数であるセッションとは別に、それ以外のセッションはオープンでやるというふうに提案なさっていたので、まあ私もそれがいいのかなと思うんです。だから、それは別にその対象でなくても、自由に参加していいというふうにするのがいいんじゃないかなと思います。

【加藤】 分かりました。この5名から10名を募集というのは、そうするとこの教育に募集するというよりは、来年、会議に実際参加してもらう方の候補を、今から教育をしていくという目的だということなんですかね。

【山崎】 はい、そうですね。直前になって参加しますだと、まあいろいろ基礎知識が足りないとかということはあるでしょうから、十分準備してからそういうのに参加できるようにということが必要かなと思って、このようにしてみました。

【加藤】 分かりました。実際、上村先生とか、実積先生とか、IGF関係でいろいろ大学の関係者の方もいらっしゃるんで、そういう人から見て、こんなのあるけれども是非、という声をかけていただくのが、いいのかもしれないですね。

前に横澤先生が京都大学で、ゼミの方を海外のIGFに派遣されたりした例もあったと思いますけれども、そういうのがもっと組織的になってくれるといいのかなと思いました。

あと、皆さんよろしいでしょうか。何か付け加えることもありますし。

じゃあなければ、山崎さん、いろいろもう既にコメントが出ているようなので、またそういうものを反映した版を出していただいて。これ、そういう意味では、今日大枠承認ということなのか、どういうスケジュールで、今スケジュール出ていましたけれども、この方向性自身はどういたしましょうか。

【山崎】 そこまで急がなくてもいいとは思っていますので、まずは反映版を作成して、皆さんにもう一回見ていただいて議論する。

【加藤】 はい、承知しました。

【山崎】 で、それで方向が固まりそうであれば固めて、8月頃募集開始できるように持っていくということを考えておりますけれども。そんな感じでいかがでしょうか。

【加藤】 分かりました。

【前村】 質問です。前村です。リソースはこれ、金要るんじゃない？人、人も要るかもしれないけれども。

【山崎】ここに参加なさっている皆さんには無償でお願いしたいんですけども、先ほどお見せしたようにかなり広い分野に渡りますので、中には、例えばフリーランスの方とかにも、ひよっとしたら講義をしてもらわなきゃいけないと思うんですけども。その場合には、費用の支払いをしたほうがいいということになるかもしれません。それちょっと書いてないんですけども。その場合は、出せる人が出ずということに。

【前村】えっと、そうかもしれないんですけども、これ例えば、多分ね、今山崎さんがこれを言うすると、もう山崎さんがこれ全部事務を一手に引き受けてやるから、あとは講師を皆さんよろしく願いしますって言っているように聞こえていると思うんだよ。

【山崎】まあ基本的にはそうですね。それを手伝ってくれる方がいらっしゃればいいんですけども。

【前村】どれくらい重たいのかが、ちょっとよく分からないなと思いました、ちょっと。

【山崎】はい。そういう意味では、ほかの団体と協力しながらやるほうがいいのかもしれませんが。そういう意味では、総務省さんからのインプットがあると、その辺はありがたいんです。Net.Missionとつてのある堀田さん、前村さんあたり、高松さんあたりにも、ちょっと御相談したいとは思っています。

【加藤】キルナム（・チョン氏）なんか昔からずっと、こういう教育をしたりなんかしている、ああいうところはかなり高いんですか。

【山崎】APSIGですよ。

【加藤】ええ。だけれども、無償にする仕組みも持っているんですかね。

【前村】いや、金は取ってないと思いますよ。

【加藤】そうですね。

【前村】はい。活動できる人が確保できているということと、あとは講師は恐らく、無償でこういうのはオファーするんだろうと思いますね。

【加藤】そうですね。何でキルナムを出したかという、セッション全部じゃなくてもいいけれども、幾つか英語のセッションがあったほうがいいんじゃないかなという気がするんですよ。

【前村】私もそれはそう思いますね。で、喜んで講師は引き受けてくれると思いますね。

【加藤】じゃないかなという気がするんですね、時差もあまりないから、あの辺の人が。じゃあ、自分がやっているところに一緒に聞いてもいいよって言ってもらうんでもいいんですよ。

【前村】うん。

【山崎】そういう意味では、APSIGなり、Net.Missionに相乗りというのは、大いにできるならやったほうがいいとは思っています。

【加藤】そうですね、調整できれば。

【前村】だから、こういう議論は前にもちょっと別のところでやっていたんですけども、これは堀田さんの言葉を、私が堀田さんがこう言っていたって申し上げるんですけども、こういうことをやるのに三重苦というのがあって。1つは、インターネットガバナンスやインターネットのことにに関して知識がないということと、次には日本語でも議論をしないということと、次には、英語でしゃべるという機会もないという、この3つをどうやってクリアしていくのかということのを、うまくこうプログラムに結びつけていくということが多分重要だと思っていて。それで、ただ、それをやったらやった分だけ、確実に何か成果にはなるのかなという気がします。

確かにね、こういうふうなテーマをばーっと並べて、それぞれに講師をお願いして、Zoomの部屋をつくってという感じで、多分山崎さんの頭の中ではこういうふうにはやればできるんじゃないのかなということが、多分描けていると思うので。そうすると、結構やれてしまうのかなという気もしてきたので。あともう一思案、二思案すると、プログラムできるのかなという気もしてきました。

【加藤】そこはちょっと、前村さんと山崎さんで、次回までに実現性を議論していただくとして。あと、よろしいですか。これ、すばらしい第1ステップだと思うんですけども。

あとコメントや御質問なければ、次回に大きな方向性を決めるというか、次回以降ということで、次に移らせていただいてよろしいでしょうか。

【山崎】私は構いませんけれども、参加の皆様が、よろしければ、はい。

【加藤】特に、これ否定的なコメントもなかったもので、議長の勝手な独断と偏見で、この方向で、次回大きく方向性を固めるということで、次に移らせていただければと思います。

それで、あとチーム会合の運営というのがあって、これ堀田さんとか、もともとはオバタさんかどなたからコメントがあったのかな、活発化チームのチェアの話とか、何かこの運営の話というのがあったと思います。堀田さん、前村さんもそれに賛成ですというようなことを言われたかと思いますが、何か今お考えのこと、この場で伺うことありますでしょうか。

堀田さん、前村さんがいらっしゃるのかな。

【堀田】堀田です。メールに書いたとおりでなんですけれども、チェアがいたほうが、いたほうがというか、いないとなかなかガツガツと締められないなという感じがしています。

この2回、加藤さんがなっていて、いい感じだと思っていますけれども、これも結局、全体のスケジュール感というんですかね、ここまで今日やっておかないとだめだというのは、もう単なる司会以上の議長というんですかね、委員長というんですかね、そういうのがいてからこそだと思っているので、必要かなと思っています。

【加藤】前村さん、いかがですか。前村さんは事務局はやる、やりますというようなことを、たしか前回も言っていたと思うんですけども、事務局として前村さんも、かなり全体的なことをいろいろドラフトしたりとかされていると思いますが、いかがですか。

【前村】単純に賛成と言って、理由をつけろと某氏から言われたんですけども。堀田さん、堀田さん

が書き出してくださったような理由で、もちろん賛成をいたしておりまして、チェアをちゃんと定めてやったほうがいいだろうと思います。その上で、今までと、今までぐらいのことしかできないというか、今までどおりといたしますか、山崎がちょっと前面に立って、いろんな事務の手はずをやっておりますけれども、それを継続してやらせていただくというふうなことですし、私自身もできるだけ、私ができることをやっていきたいと思います。ありがとうございます。

【加藤】ほかの方がいかがですか、そのチェアということで、具体的な役割の定義とか、どれぐらいのことが必要でという、仕事としてですね、ということがないと、なかなかそれじゃあ引き受けますとかという、誰がいいというのものないかもしれないんですけども。その辺はいかがでしょうかね。全体のロードマップをつくりながら、チーム全体を仕切るチェアが存在ですか。

【堀田】堀田です。よろしいですか。

今、加藤さんがおっしゃったとおりですが、多分ちゃんと毎回資料を積み上げていかなきゃいけない、資料、資料というか検討結果を積み上げていかなきゃいけないと思うので、ちゃんと資料をつくれる人間が2人ぐらいいないと、チェアに全部乗っかかるとうまくいかないはずなんですね。そういう人と一緒に、チェアをセットで選ぶという感じじゃないですかね。

【加藤】先ほどちょっと見せていただいた、その事務局団があって、その人たちをうまくリードしながら、全体の取りまとめをしていくと、こういうことですね。

【堀田】ここで、参謀って3行目に書いていますけれども、これが実際にチェアをサポートするというより、実際の検討はその人たちがやって、チェアが引っ張るとい感じかなというふうに私は捉えています。

【加藤】こういうコメントを書き込んでいただいて、特に異論もなく賛成だという意見が何人かから出ているんですが、具体的にどうやってそれを、それじゃあ決めますか、何か御提案とかがあれば。

【堀田】個人的には、参謀はやってもいいと思っています。堀田です。

【前村】前村ですけれども、先ほど、今までにメーリングリストの運営とか、先ほど申し上げたことと同様で、事務とあとこういうふうな組織化のようなものというのは、資料づくりなどいたしております。参謀という言葉が似つかわしいかどうかは分からないんですけども、こういった形で働かしていただければと思います。

【加藤】ということは、どなたかチェアを。

【前村】チェアは、やはり加藤さんをお願いするのが一番安定感があると思っておりますけれども、大変なところ恐縮なんです。

【堀田】賛成です。

【前村】それ以外の想像がつかないところなんですがね。

【加藤】立石さん。

【前村】立石さんが手を挙げたのかと思った。なんて。

【立石】すみません、こっそり。

【山崎】拍手ですね。

【加藤】時間がどれぐらいかということで、私個人的に、もう皆さん、あれですけども、かなり時間を割く気になれば割けるんですけども、本当に私で務まりますか。

実際、前村さんや堀田さんが助けていただいて、できるのであれば、取りあえずちょっとやってみて、だめならすぐ首にさせていただくという前提なら、お引き受けをしてもいいですけども、できますかね、本当に、皆さんがおっしゃられているようなチェアというのが。

【前村】いや、もうできると思えばできると思います、できると思いますというのは何か、何でそれ言にくいというのか、何か偉そうでもあるんですけども。

【加藤】いや、とんでもないです。取りあえずチェアということで、じゃあ皆さんから、やっぱりだめでしたというときは、すぐ言うてくださるという前提でよろしいでしょうか。

【堀田】はい。

【前村】よろしくお願いします。

【加藤】それとか、もっと別の方が期待できる方があれば、ぜひそういう人を常に探していただくという前提でお願いしたいと思います。

じゃあ、この話はそれでよろしいのでしょうか。

【前村】よろしくお願いします。ありがとうございます、お引き受けいただいて、加藤さん。

【加藤】いえ、とんでもないです。ちょっとチェアの話が出てきて、正直どういうことをイメージされているのか分からなかったんですが、できるだけ努力はさせていただきます。自分の時間も割けるようにしたいというのは、長年思っていたことですので、少しずつでもそれに近づきたいとは思っています。よろしくお願いします。

【堀田】よろしくお願いします。

【加藤】ということで、次回の打合せということで、アジェンダ上はもうこれってよろしかったですかね。

あと、もう一つですね、この場であれなんですけど、実はもうAPrIGFのほうは、シンガポールのセッションの申込みはもう過ぎちゃっていますが、先ほど飯田さんからもお話があったように、6月の3日まで日本からの、日本からのというか、セッションの募集はまだオープンなんですけれども、このチームとか御存じの方で、6月3日までに何か出すという方いらっしゃいますか。できることなら—あ、立石さんお願いします。

【立石】 すいません、間に合うのかどうかぎりぎりで行っているんですけども、これまでの日本の国内における違法有害情報の取り組み、特に古くはスパム対策のOP25Bとか、私が一番重要だと思っているのは、海賊版もそうなんですけれども、それ以前に児童ポルノのブロックの件について、前々から海外に紹介をと言っているんですけども、全然できなかったことを、今回ちょっとやろうかなと。

児童ポルノもそうだし、海賊版も同じなんですけれども、最終的には国際連携しないとなかなかふん詰まってしまう話が多くて、西太平洋の国で恐らくこのデータフリーフローというやつで、一番頑張っているのは、自称ではありますが、多分日本ではないかなと思います。いわゆる検閲、なんかフィルタリングしないで、ぎりぎりぎりぎり最低限しかやってない多分、日本だけだと思いますので、その取組についてちょっと説明するセッションをしようと思います。これは、ほぼ同じ内容ではないんですが、ほぼほぼよく似たことを、実はAPrIGFにも提案をしまして、まだそれが採用されるかどうかは分からないんですが。

総務省さんでいけば、消費者行政2課になるのかな、の方ともちょっと相談しながら今進めている状況で、されればエチオピアまで行っていると思っています。

ちょっと、ちょっと間に合うかどうかは微妙なんですけど、はい。よろしくお願いします。以上です。

【加藤】 ありがとうございます。立石さん以外にどなたか。

横澤ワ先生が、ICCとかと組んで何かやられるのかなというのは、何か伺ってはいますが、日本からさつき飯田さんが二、三件は出すとおっしゃっていた、それでかなりいろんなものが出てくるのかなと思います。

堀田さんところのテクニカルコミュニティーで、何かあれがございませうか。

【堀田】 特に話は出てないです。

【加藤】 今はないですか。

【堀田】 ええ。

【加藤】 分かりました。それでは、6月3日までに、ぜひ立石さん、間に合うようであれば頑張っていただいて、皆さんにも共有していただければと思います。

【立石】 よろしくお願ひします。

【加藤】 APrIGFのほうにはもう出されているわけですね。

【立石】 はい、そっちのほうはもう出して。

【加藤】 前回と連続で行っているわけですね。

【立石】 前回のアップデートで、はい、基本に、ちょっとその緩和規制の部分まで含めてやりたいということで、一応出していますが、ちょっとどうなるか分からないです。

【加藤】 はい、分かりました。

それじゃあ、アジェンダアイテムは大体カバーしたと思います。

それで、今日、議論していただいた中で、ぜひ新しく出された飯田さんから話があった日本のブースとか、日本でいろいろこうコミュニティーでサポートしてほしいという、これぜひ次回までにあれですし、飯田さんのほうからも、どんなことが本当にもう必要なのかというのを、ちょっとさらに聞くということで、これ一つ新しい項目になったと思います。

それから、2つ目大きなこととして、組織の枠組みの話が、今日前村さんからかなり出していただいたので、これについて方向性として、次回方向性を決められるように、ぜひメーリングリストの中で、先ほど指名なのか、承認なのか、その辺の議論があったと思いますが、まだ細かいところいろいろあると思いますので、なるべくメールリストでやって、次回大きな方向を決めるということだと思います。

それからユースも、今日いたたき台をつくっていただいたので、これも次回以降、方向を決めるということで、次回のアジェンダアイテムとして重要なことだと思います。

大きなところ、今回はその辺ですね、秋イベントについては、その後どうでしょうかということで、恐らく秋イベントのために一度、プログラム委員会のミーティングを企画していただけるかなと思っていますので、その辺の御報告等がアジェンダアイテムになるかと思っています。

最後、次回打合せの開催時期ですが、今から3週間後ということであれば、20日の月曜日、5時から7時ということで、よろしいでしょうか、これは。

お許しいただくなら、今チェアという話もあって、次回も引き続き司会をやらせていただくということで、表明させていただきます。

【立石】 お願いします。

【堀田】 お願いします。

【加藤】 山崎さんから手を挙げていただいています。

【山崎】 いえ、これは拍手です。

【加藤】 じゃあ、次回6月20日ということで、宿題がいっぱい出てきて、特に前村さんの紙がいっぱいあるので、こう消化し切れないかもしれませんが、どんどんコメントをしていただくと、多分前村さんからそこに追加コメントがあって収束していくと……。

【前村】 メーリングリスト上で話が進むように、心がけてやっていこうと思います。よろしくをお願いします。

【加藤】 よろしくをお願いします。

今日も長い時間ありがとうございました。最後一言とか、これは漏らしたというのがあれば、この時間にお願ひしたいですが、いかがでしょうか。

【前村】今議論するというんじゃないんですけれども、チェアを選任してということであると、チャーターにそれインプリしたほうがいいんですよね、ちょっと面倒くさくて、作業のかさが張る話なんですけれども、というのをちょっとメーリングリストでキックオフしたいと思います。

【加藤】1回で首になるかもしれないので、お手柔らかにお願いします。

【前村】いえいえ。

【加藤】じゃあ、あとよろしいでしょうか。

今日もありがとうございました。また3週間後に、それまでにプログラム委員会とかいろんなところでお話できると思います。ありがとうございました。

【前村】皆さんありがとうございました。

以上